

コミュニケーション円滑に

「UDトーク」聴覚障害者と健聴者つなぐ



スマホなどを使いUDトークを体験する参加者

室蘭で講習会 普及期待

聴覚障害者のコミュニケーションを支援するアプリ「UD（ユニバーサルデザイン）トーク」が注目を集めている。室蘭市内でも健聴者と円滑なやりとりをする新たな手段として広がり期待が高まる。19日に市社会福祉協議会（東町）で講習会が開かれ、出席者が筆談に比べ会話がスムーズになるメリットを確認した。（粟田純樹）

話した言葉を 端末で文字化

UDトークは無料で利用できるアプリ。音声認識技術を活用し、話した言葉を即時にスマートフォン（スマホ）やタブレット端末上に文字化できるのがポイント。マイクやプロジェクタ

を端末に接続することで、教育現場や会議、講演会など大勢の人向けの利用も可能となる。東京のIT企業が開発した。

講習会は北海道中途難聴失聴者協会西胆振支部（菅野登一郎支部長）が主催し、24人が参加した。同協会本部の佐々木亜規子さんがUDトークの活用事例を伝えたほか、実際にスマホなどでの使い方を指導した。

佐々木さんは①音声認識と音声合成②多言語翻訳③ひらがな変換④装音もしくは着音できるコンピュータ「ウエアラブルデバイス」などの連携などの特徴を挙げ、コミュニケーションツールのし幅広く活用されていることを紹介した。

実際に会議録や議事録、講演録作成に使われている事例を紹介し「作業の省力化にもつながっている」とアピールした。会話の内容をメールで共有できる機能や複数端末での同時利用もできることを伝えた。

同協会西胆振支部の五島真知子事務局長は「伝えたことを紙に書く必要がなく負担が少ない。職場などで発言できる機会が増える。病院や官公庁にぜひ導入してもらいたい」と期待を寄せた。